明照会
大正７年９月19日創立
第１８０号
令和６年３月１日
社会福祉法人上田明照会
浄仏国土（じょうぶっこくど） 成就衆生（じょうじゅしゅじょう）
（法人設立理念）
ニュース
平成15年４月７日創刊

「第三者評価を受審して」

蓮の音こども園　園長　土屋裕子

第三者評価制度が開始され、モデル事業所として平成17年、１回目の受審を受けて以来、２回目の受審となりました。当法人の他の事業所は既に受審が済んでおり、児童発達支援は任意なことから、児童に精通した評価機関を選定しながら、毎年義務づけられている児童発達支援の事業所評価を行い、その課題に取り組みながら準備を進めてきました。

第三者評価の目的は、「利用者のサービス選択及び事業の透明性の確保のための情報提供」「事業者のサービスの質の向上に向けた取り組みの支援」この2点と言われています。

評価機関として依頼した「コスモプランニング有限会社」の担当調査員は、偶然にも第１回の受審の際にお世話になっていた方で、法人の理念や設立の経緯、全事業所のことを鮮明に記憶されていました。驚きと共に理解していただいている実感がありましたので、安心して進めることができました。

受審の流れは、事前に職員の自己評価、保護者アンケートを提出し、その結果を踏まえた上で２日間の訪問調査になります。評価項目の根拠となる資料の確認や聞き取り、実際に子どもたちの様子を参観し、最後に職員のヒアリングです。期間としては約３ヶ月間でしたが、打ち合わせや事前に提出する共通評価項目、内容評価項目の合計302項目は、支援内容や組織運営等、様々な項目から構成されていますので、一つひとつ関係書類やマニュアル等と合わせながら、

項目にある細目の意図する根拠を記していくことに多くの時間が費やされました。自己評価を進めていく中で、今取り組んでいる現状を把握することができるとともに、改めて、法人の理念を基に組織として運営されていること、地域福祉の役割を継承してきた歴史の深さにも触れる機会となり、責任の大きさを感じました。

調査員から「評価は、できているか、できていないかではなく、結果を受けてどのように改善して取り組んでいくかを促す仕組み」とのお話がありました。結果として概ね良い評価をいただきましたが、今は明確になった課題を共有し、取り組みを進めている段階です。社会のニーズを見据えた中長期計画の作成や、働きやすい職場環境を組み立てることを検討課題とし、支援で良い点として評価されたことは自信を持って、これからも子どもたちの最善の利益になるよう、推し進めていきたいと考えています。

鍛冶町児童施設は中央玄関から入ると、明るく、わくわくするような庭が見えます。そして、蓮の音こども園と甘露保育園の子どもたちの元気な声も聞こえてきます。調査員の方は、最後の講評で「玄関に入った時から、明るく、温かく、懐かしい感じがした」と仰って下さいました。一人ひとりの個性を大切にすることを意識している私たちの気持ちが伝わったような瞬間で、とても嬉しく勇気づけられました。同じ志を持つ職員が、蓮の音こども園の特色を活かせるよう、チームとして明るく、丁寧に支援することで、協働の力が発揮できればと思います。

最後になりましたがお忙しい中、保護者の皆様にはアンケートにご対応いただきありがとうございました。これからも、関係する方々のご支援をいただきながら、信頼される蓮の音こども園であるよう取り組んでまいります。

きらきら星みいつけた！

ともいき宝池慈光では、11月になると切り干し大根作り始めます。今回で３回目になりますが、利用者さんの手付きは慣れたもので、職員と一緒にやる人、一人で何本も剥いてしまう人も。１回目は失敗、経験を生かした２回目は上手に出来ました。はたして今回は･･･。慈光みんなで挑戦した姿を紹介したいと思います。

皆でたくさんの大根を剥きました。一人では難しい方も職員が少しサポートすることで参加し、この人ならこれが出来るよね！と役割を見つけることで全員の参加に繋がっています。集中している為、やり始めると沢山あった大根があっという間になくなりました！！

慈光みんなで作った今回の切り干し大根、とても上手に出来上がり大成功に終わりました。いつの日か、切り干し大根と言えば慈光と言われるように、これからも続けて行きます。

利用者さんを夢中にさせるゲームがあります。こちらも紹介します。
新年を迎え、カルタやトランプといった正月遊びをするなかで一番盛り上がったゲームが「ドンジャラ」でした！！普段、味わえないドキドキと興奮がそこにあるようで、今でも活動の一つとして楽しみになっています。

道標（みちしるべ）

グループホーム職員　木下文夫

毎日のニュース報道によると、戦争が終わらないどころか長期化し、残虐性を増してきています。そんな中、事業所に毎月配布される浄土宗新聞を読んでいて心に刻みたい言葉に出会いました。「この世において、恨みを以て恨みに報いれば恨みは決して止むことがない。恨みを捨ててこそ恨みは止む。これは永遠の真理である。」（法句教）これは私たちの営む日常生活や人間関係においても必要なことだと思います。又、『あの言葉を想う』第 87 回でゴルゴ松本氏が「和」について聖徳太子の言葉を紹介しています。昭和から平成を経て令和になり、又「和」が戻ってきました。私の所属するＧＨにも和の冠が書き込まれています。「和」について深く考えてみたいと思い巡らしています。

創立百周年記念講演より

新田施設建設について「新田建設ＮＥＷＳ」の定期刊行が始まりました。全職員が会長の提言に思いを馳せ、一緒に新しい新田事業所を考えていくことが求められています。建設趣旨の中には「利用者、家族の思いに寄り添いながら、公益性のある事業所、地域のニーズにもこたえていけるような事業所にする」という理念が読み取れます。これを読んで、かつて地域における「福祉エリア構想」というものがあったことを思い起こしました。入所施設である宝池月影寮が慈光・和順とエリアを共にしていた時代の事です。1978 年当時、施設の社会化という共通課題があり、長野愛護協会にも社会化専門委員会というものが設置され、地域アンケートなどを通じた実態分析が全県的に取り組まれていました。当時の月影通信や実践紀要にもそのデザインが残されています。

地域社会と関係性を持った生活を作っていくということと共に、明照会で重要視されていたのが、山門をくぐるということの精神性でした。当時の職員はそのことを「さんもんにーる」（山門に入る）と表現しています。山門の結界を越えるとそこは浄らかな世界となります。このような仏教福祉の理念を名誉会長から日常的に教えていただきました。

高校受験対策に必要だからということで、担任から勧められた信濃毎日新聞の「建設評」という読者投稿の欄を読み始めて半世紀以上になります。10 年くらい前の坂口氏（保育園）の平和に関する投稿も心に残っています。

最近では、一部ＧＨの食材費の過大徴収やサービス料金の不正請求などの不正が報道され、ＧＨに奉職するものとして心を痛めていました。社説には「障がい特性の理解と経験を持った職員による支援体制が欠かせない」（1・23）とあります。建設評欄には保護者からの投稿（2・7）がありました。「一部の事業者がＧＨ経営で利益を追求し、それが障がい者への経済的虐待になっているという報道を見聞きするたびに腹立たしく思っています」と心情が表現されていました。
又、親の高齢化問題がある中で「親自身が要介護になったり、親と死別したりしても、慣れたＧＨでの生活を続けさせたいと願っています」と希望を語られています。私たちのＧＨでは利用者の障がい特性の理解を進めるとともに、お互いが思いやりを持って日々を明るく過ごせるような関わりを追求しています。
しかし、多くのＧＨで支援する人材が得られないという現実があるそうです。建設評は「国や県には必要な財源確保を強く望みます」と締めくくられています。

バイオリニストの唐津留すみれさんが『あの言葉に想う』第 94 回に登場してきます。あの言葉とは「精魂尽くして颯爽たれ」というものです。これについては次回に続くということにします。

味遊カフェニュース

味遊カフェでは毎月４種類のランチを日替わりでお出ししています。
“カレー”と“キッシュ”は定番で毎月登場している、
根強い人気のランチです。

毎月食べている方も、お久しぶりの
方もぜひ召し上がってください(^^♪
新しいおいしさを発見できるかも⁉

キッシュ単品でのテイクアウトも
出来ますよ！

リレーコラム

前回のともいきライフ月影の 竹森 勇二さんからバトンを
受けとったのは ともいきライフ月影の **大澤 清志** さんです。

ともいきライフ月影の竹森さんよりバトンを受け取りました。同事業所の大澤清志です。
突然ですが、皆さんキャンプは好きですか？私は大好きです。３年程前より本格的に始めてから、回を重ねるごとにハマリ続けています。今回は、私のキャンプ歴の中から、皆さんに特にお伝えしたいキャンプの魅力を説明させていただきます。

○非日常の空間でリラックスできる
仕事や人間関係などでストレスが溜まっていませんか？大自然に囲まれた空間で好きな料理やお酒を飲み、焚き火を囲み友人や家族と談笑し、満点の星空を眺め、朝は挽きたてのコーヒーを飲む。日々の喧噪から離れリラックスできるからこそ、何度でもキャンプに行きたくなります。

○自然を活かした特別な遊びを体験できる
キャンプは山の中、川や湖の畔で行うため、自然の中ならではの遊びを体験できます。例えば、スラックライン、木登り、ボート、釣りなどです。大人でも童心に戻りはしゃいでしまいます。

○料理が上手になる
キャンプといえば、美味しいキャンプ飯です。手間が掛かる料理は家だと作る気になれませんが、キャンプでは苦労と感じず楽しめるのが魅力です。失敗してもそれもキャンプ！挑戦してみましょう。

ここまで読んでいただきキャンプに行きたくなってきたのではないでしょうか。しかし、実際ある程度道具を準備する必要があり、面倒くさい、お金が掛かるとマイナスなイメージを持たれている人もいるかと思います。今は、キャンプ場で一式レンタルができたり、流行りのグランピングから始めてみたりしても良いかと思います。
ゆったりと流れる時間の中で、感覚的に自然と触れあうことは心を豊かにしてくれます。それは、仕事や日常生活の中でも生きてくるはずです。
ぜひ、キャンプを始めてみてはいかがでしょうか？

大澤さんありがとうございました！
さて次回のリレーコラムは…
『**ともいきライフ住吉 早津　誠 さん**』です。
よろしくお願いします！

♡癒しのじ・か・ん♡

ともいきライフ住吉　西澤れん

今すぐホームページをチェック！　⇒

https://ueda-meishoukai.or.jp/

編集後記

令和５年度の明照会ニュースも特別号の管理者挨拶から始まり計５回発刊する事が出来ました。多くの方からご協力をいただきながら、意思決定支援　きらきら星　みいつけた　リレーコラム　道標　癒しのじかんを連載する事が出来、本当にありがとうございました。新田建設ＮＥＷＳも含め、まだまだ発展途上の広報誌です。
令和６年度も引き続き皆様からの情報や記事をいただき、言葉の力や写真の力を生かしながら、新たな試みや、皆様の思いを発信していけたらと思っております。

広報･情報処理管理委員長　今井 拓士

社会福祉法人 上田明照会